介 護 職 員 自 己 評 価 表

2022年7月4日

事業所名	介護老人福祉施設　喜入の里

	正社員	非常勤社員
介護支援専門員	2人	
社会福祉士	3人	
あん摩マッサージ指圧師	1人	
看護師	3人	3人
介護福祉士	12人	2人
実務者･初任者研修	4人	2人

※複数資格者含む

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	備　考
前回の課題に関する改善	21.0%	36.9%	30.7%	11.4%	

前回の改善計画

ご入居者とご家族との面会について、昨年は限定的であったが、多くのご家族がワクチンを接種されている現状をみれば、面会について再検討する必要があった。ご利用者とご家族の関わりは、ご利用者の日頃の写真等を活用する取り組みを継続しているものの、ご家族希望に沿った方法を検討すべきであった。スタッフ教育は、①理解度や習得状況に合わせた指導、②メンターを主任等がサポートする体制、③経験の浅い介護職員とメンターへのスーパービジョンの実施頻度について改善が求められていた。なかでも、メンターのサポートは早急に検討すべきであった。スタッフの自己評価において、認知症対象者とのコミュニケーションスキルの不足が示され、入浴介助に関するスキル不足が疑われた。

前回の改善計画に対する取組み結果

理解度や習得状況に合わせたスタッフ指導は、コロナ禍で勤務変更が増え、必要性に応じた指導はできなかった。メンターを主任等がサポートする体制は概ね整い、経験の浅い介護職員とメンターへのスーパービジョンも適宜実施できた。人事部によるスタッフ面談も併せて実施していることで、スタッフの負担感は改善しつつある。スタッフの自己評価において意思疎通と入浴介助に問題があることが分かった。外部講師による認知症ケアの研修とOJTによりコミュニケーションスキルの向上を図っている。入浴介助に関するスキル不足は、ベテランスタッフによるOJTにより改善を図り、一定の効果があった。小集団の体操や口腔体操は入所者の楽しみの一つになっているので、残存機能を意識した体操を心掛けている。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)		よく できている (60以上)	なんとか できている (50～59)	あまり できていない (40～49)	ほとんど できていない (39以下)	合　計
SECTION　1	対象者の接し方や態度について	18.8%	56.3%	12.5%	12.5%	100%
SECTION　2	仕事上の態度について	18.8%	31.3%	43.8%	6.3%	100%
SECTION　3	食事について	25.0%	25.0%	37.5%	12.5%	100%
SECTION　4	移乗や移動について	25.0%	31.3%	31.3%	12.5%	100%
SECTION　5	排泄について	18.8%	50.0%	18.8%	12.5%	100%
SECTION　6	入浴について	18.8%	31.3%	37.5%	12.5%	100%
SECTION　7	着替えや整容について	18.8%	31.3%	37.5%	12.5%	100%
SECTION　8	服薬について	25.0%	18.8%	50.0%	6.3%	100%
SECTION　9	意思疎通について	18.8%	43.8%	25.0%	12.5%	100%
SECTION　10	行動障害について	18.8%	62.5%	6.3%	12.5%	100%
SECTION　11	普通の生活やアクティビティについて	25.0%	25.0%	37.5%	12.5%	100%

自己評価及び改善が必要な事項

スタッフスキルに問題があった意思疎通は、「あまりできていない」は、2021年(40.0%)から2022年(25.0%)になり、「ほとんどできていない」は、2021年(5.0%)から2022年(12.5%)になった。できているスタッフは6割を超えた。OJTに加えて外部講師による認知症ケア研修を実施したことで、ある程度経験のあるスタッフのスキルは向上した。一方、入浴介助は、「あまりできていない」は、2021年(35.0%)から2022年(37.5%)になり、「ほとんどできていない」は、2021年(5.0%)から2022年(12.5%)になった。服薬は、「あまりできていない」は、2021年(25.0%)から2022年(50.0%)になり、「ほとんどできていない」は、2021年(10.0%)から2022年(6.3%)になった。どちらもスタッフの半数ができていないので、できていないスタッフに個別指導を実施したが、さらなるスキル向上が求められた。ご入居者とご家族の面会は、鹿児島市の新規感染者が増加し、第7派が懸念されている現状をみれば、しばらくの間、「ガラス越し面会」「Web面会」に頼らざるを得ない。Web面会については、多くのご家族が要望されていた、LINEアプリが選択できるようにし、ご家族が利用しやすいWeb面会を目指している。

主任 水枝谷 芳文

外部評価者

新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかからず、ご家族は疲憊していると思われます。多くのご家族が要望されたLINEアプリによるWeb面会は、Web面会の一つとして整備され、複数の仕組みから選択できるように改善していました。一方、対面での面会は「ガラス越し面会」で代替せざるを得ないようでした。コロナ禍が長期化しているからこそ、ご家族の意見や要望に寄り添った、納得の得られる面会の検討が必要になりそうです。介護職員の教育は、コロナ禍で勤務変更が増え、一定の効果に留まっていました。OJTやロープレを実施したことで、入浴や意思疎通の技術は向上し、服薬の知見は深まったようですが、認知症ケアで問われるコミュニケーション力の改善は限られたようです。認知症は行動につながる原因を察することが重要だといわれます。最も多いアルツハイマー型では、記憶障害が不安や不快感を引き起こし、行動に影響を及ぼすことで問題化します。過去の経験を知ることで、問題となる行動の理由や適切な支援が分かるかもしれません。脳神経内科医師 黒野先生を始め、認知症ケアに知見がある講師による研修で、認知症ケアのスキル向上を目指していました。認知症ケアは知見の習得と臨床の積み上げが大切です。これらの取り組みを継続してください。経験の浅い介護職員とメンターへのサポート体制、人事部による面談が整備され、介護職員の負担感は改善していました。総合的な評価は、入居者に適した支援を提供するため、職員教育に積極的に取り組んでいることが推察できました。今後も地域に根ざした事業所として頑張ってください。

〒891-0141 鹿児島市谷山中央5丁目37-11-302
特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所
博 士(社 会 福 祉 学)　岩　崎　房　子